

L'aile d'Howl

【ライル・ドウル：ホウルの翼(仏語)】

2014 年 9 月号



花巻祭りも終わり、だんだんと秋の
気配が漂ってまいりました！
スポーツの秋にはやっぱりハンド！
気持ちは熱くいきましょう☆



日韓中ジュニア交流競技会！チーム岩手 男子は第 2 位の大健闘！女子は 3 位！

第 22 回目となる日韓中ジュニア交流競技会は、11 種のスポーツ競技において高校生たちの交流が行われ、ハンドボールはここ花巻市総合体育館を会場として、若い世代による国際交流試合が開催されました。チーム岩手には、地元花巻から佐藤夢良選手、山崎純平選手、中村惇平選手、秋山日菜子選手の 4 名(不来方高)が入りました。また、花巻クラブジュニアでハンドボールを始めた菊地理美選手(盛岡南高)も岩手代表として参戦しました。試合初日となった 8 月 25 日は、岩手県代表チームと日本代表チームの試合が行われました。まず女子ですが、U-19 日本代表にも名を連ねるメンバーを擁するチームに対し、チーム岩手は序盤の緊張からかボールが手につかず、また積極的にボールを奪いにくる DF を攻めきれず、前半 15 分で 10-1 と大きくビハインド。エースの村上ひなの選手(不来方高 3 年)が体を張ったプレーでシュートを押し込みますが、15-5 とリードされたまま折り返します。後半に入っても点差は徐々に開く一方であり、結果的には 30-12 と、もう少し日本代表チームに攻め寄せたかった印象で終わりました。



その後男子の試合は、緒戦からチーム岩手が優勢。村木弘人選手、山崎純平選手がミドルシュートで得点を挙げると前半 8 分で 6-3 とリード。チーム岩手は前半 20 分まで一歩リードしますが、徐々にプレーが合ってきた日本代表に終盤逆転を許しますが、12-13 の 1 点差で後半に望みをつなぎます。後半 20 分、気が付けば 19-26 と大きくリードされていましたが、ここであきらめるチーム岩手ではありませんでした！後半 22 分から残り 1 分まで日本代表を無得点に抑え、宮崎聖選手のサイドシュートなどで連取し、26-28 の 2 点差まで詰め寄ります。ラスト 1 分、残念ながら 2 点差を縮めることはできず、27-29 でタイムアップ。しかし、日本代表を最後まで苦しめたチーム岩手に、会場からは大きな称賛の声が湧いていました。

2 日目、中国 vs 日本の試合は、5 点ビハインドで折り返した日本代表が、平均身長 190cm に届こうかという中国チームの体格差に押され、点差を縮めることができません。後半 20 分には 10 点差となりましたが、前日よりチームがまとまってきた日本は、積極的な DF からの速攻を繰り返し、ラスト 1 分で同点になるかという展開。巻き返しがあと少し早ければ逆転したであろうゲームでしたが、惜しくも 31-30 で敗れました。日本代表が見せてくれた意地には素直に称賛に値しましたが、中国チームがラスト数秒で故意にコート外にボールを投げたり、タイムアップの瞬間にユニフォームを脱ぎ捨てて勝利の雄叫びを挙げたりしたことは非常に残念でした。最後までスポーツマンシップを貫いてほしかったです。

続いてチーム岩手と韓国の試合が行われました。女子は前日に続き、韓国の DF を攻め切ることができず、ロースコアの展開。一方韓国は、中央の選手たちが物凄いキレのフェイントを繰り出し、チーム岩手の壁を縫って得点を重ねていきます。岩手は後半も得点が伸びず、終わってみれば 11-27 という結果。力の差を感じた試合展開でした。





男子の試合は、序盤は一進一退の攻防となりますが、山崎純平選手の 7M スローが阻まれ、徐々に差が開き始めます。韓国の非常にキレのあるフェイントからスピードある展開にチーム岩手の DF が少しずつ崩され、前半 20 分には 9-18 のダブルスコアに。前半を 15-22 で折り返しますが、後半もその差を詰めることができず、28-37 で敗戦を喫しました。

大会最終日、アジアのライバルとして長年競い続ける日韓戦が行われました。女子は、日本代表が前半一進一退の試合展開に持ち込み、13-12 と 1 点のリードを保ちゲームを折り返します。後半開始早々、あわや同点という場面で①中村 GK がナイスセーブ。日本がリードしたまま試合が推移しますが、後半 17 分ついに同点に追いつかれます。その後も 1 点を争う展開が続く、ラスト 2 分で 22-22 の同点。ここでタイムアウトを取った韓国はその後カットインなどで 2 連取し、ここでタイムアップ。最後まで一歩も引かない戦いぶりだっただけに、22-24 という僅差の敗戦は非常に残念でしたが、今後に大きな期待が持

てる内容だったと思います。

続く男子の試合では、開始 30 秒で日本が先制すると、すぐさま韓国も反撃し、序盤は互いに競る形になります。日本は前半 18 分タイムアウトを要求し、追い上げを狙いますが、逆に韓国に速攻を許し 12-19 でハーフタイムに入ります。後半はポストシュートなどで得点を重ねますが、韓国の速攻で連取を許すと後半 15 分には 10 点差。点差を詰めたい日本代表は、⑥門間選手の滞空時間の長いサイドシュートなどで必死の反撃を見せますが、前半の得点差を埋めることができず、29-36 で試合終了。積極的にボールを奪いにくる韓国 DF の力を目の当たりにした試合でした。

さて、今大会を締めくくるのは、チーム岩手と中国の戦い。女子の試合では、前半を 10-7 とリードして折り返しますが、後半もシュートミスが続く、大きく引き離すことができません。一方中国は、長身選手がフリースローからのロングシュートで得点を挙げていきます。後半は岩手の得点が伸びず、後半 25 分で 17-15 と 2 点差に迫られる展開に。しかし、この後⑧村上ひなの選手がステップシュートで気を吐くと、2 点差を死守して 18-16 で勝利。今大会の最終試合を勝って締めくくることができました。



最終試合となった男子の試合は、まさに「戦い」という言葉がぴったりの様相を見せました。前半⑥宮崎聖選手のサイドシュートなどで岩手がリードを広げると、中国は執拗な激しい DF で対抗。結果として 14 分には 2 人退場となり、その間にチーム岩手はリードを広げます。中国は巨体ポストが力でねじ込むというパターンで応戦しますが、スピードで勝る岩手が 14-10 とリードして後半に突入。後半に入っても岩手がリードを保ちますが、中国の攻撃は激しさを増すばかり。これには普段温厚な岩手県選手も感情を露わにし、互いにヒートアップする場面も見られました。力任せなプレーに頼る中国に対し、チーム岩手は確実にシュートを決め、ラスト 5 分で 5 点差。このリード

を最後まで保ったチーム岩手が 27-21 で勝利を収め、この結果、得失点差で日本代表を 1 点上回り、今大会を 2 位で終了しました。非常に激しい試合でしたが、これに耐えた岩手の選手たち、そして毅然としたジャッジングをした小川至門レフェリーには大きな拍手を送りたいと思います。今大会の経験を踏まえ、チーム岩手男女には、秋の国体に向けてさらに羽ばたいてほしいと思います。

なお、最終日の夜には、花巻温泉を会場に、フレンドシップ交流会が催され、各国選手団のアトラクションで盛り上がったそうです。参加していたコーチングスタッフの皆さんも、「高校生のパワーは凄い」と感心しきりだったようです。やはりスポーツを通じての交流はいいですね！このようなイベントを通じて、アジアに平和が訪れますように。

秋季県南大会 小学生部門の結果

第 47 回県南秋季ハンドボール選手権は、会場の都合により小学生部門のみ 9 月 15 日の開催となりました。優勝は、男子・リトルハンド、女子・矢巾フェニックス、U-10・矢巾フェニックス、そして U-8・リトルハンドでした。花巻クラブジュニアは僅差で勝利を逃し、男子 3 位、女子 2 位でした。

なお、県南秋季大会は、10 月 11 日・12 日に、一般・高校部門が行われます。皆さんの応援をよろしくお願いいたします！

L'aile d'Howl (ライル・ドウル)
2014 年 9 月号
2014 年 9 月 25 日 発行
発行：花巻市ハンドボール協会